



B O A R D O F S T U D I E S
NEW SOUTH WALES

2011

**HIGHER SCHOOL CERTIFICATE
EXAMINATION**

Japanese Background Speakers

(Section I — Listening and Responding
Part A and Part B)

Transcript

Familiarisation Text

FEMALE : 来年のワールドカップ、日本もオーストラリアも行けるといいですね。

MALE : そうですね。

FEMALE : そして決勝で日本とオーストラリアが対決するともっといいです。

MALE : その時にはぼくはオーストラリアが勝つといいと思います。

Section I — Listening and Responding

Part A

Question 1

女 : ちょっと！ヒドいじゃないですか。

男 : おう、吉田か。何怒ってるんだ？はやくしないと、練習おくれるぞ。

女 : その前にちょっと聞いてください。フェースブックに、わたしの写真を勝手にのせたでしょ。しかも、先週わたしたちが図書館で騒いで、先生におこられてる写真！はずかしいじゃないですか。なんでそんなことしたんですか。

男 : ああ、あれね……。あ、そういえば、駅前においしいラーメンやができたそうだよ。おまえ、ラーメン好きだろ？今日練習終わったら、おごってやろうか。

練習あとのラーメンは特にうまいからなあ。

女 : 私のラーメン好きはいま関係ありません。それより、フェースブックの写真です！

男： ええ？おまえだっておんなじだろう。こないだみんなで行ったテニス部のキャンプで、3年の俺たちがふざけているところを撮った写真をお前のフェースブックでみたぞ。いつ撮られたのかも俺たち知らなかったんだからな。まあ、別にそんなこと気にしないけどな。今時、写真を勝手にのせるなんて。だれでもやってることだよ。

女： 私がのせた写真は、単にキャンプの様子を写したもので、人が先生に怒られているような、いやな写真じゃありません。

男： そんなに怒ることないじゃないか。おもしろいからのせてみただけだよ。ジョークだよ、ジョーク。だいたいおまえらが、図書館で騒いでいたのが悪いんじゃないか。

女： でも怒られてる写真をのせられて、わたしたち皆傷ついたし、怒ってるんです。あんな写真、だれにもみられたくありません。プライバシーの侵害です。

男： プライバシーの侵害？おおげさだなあ。そんなこといちいち考えてたら、フェースブックなんかできないよ。まあ、そんなこと忘れて、今日も練習がんばろうぜ。

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 1

ラジオトークショー

こんばんは。東京放送がお届けする、トークショーの時間です。今日は昨今のペットブームの社会現象を取り上げ、社会における人間と動物の関係について掘り下げてみたいと思います。今日は評論家の田中ひろ子先生に来ていただいております。では、田中さんにご意見をお伺いしたいと思います。

田中ひろ子： 私は動物と人間は一線を引くべきだと思います。先日ファットペットというペットの「肥満」の社会現象について書いてある研究論文を読みました。その論文によりますと、イギリスなどでは犬や猫などのペットの50%以上が肥満らしいです。そのような中で犬や猫のためのダイエット食品が出回り、肥満のペットのためのトレーニングジムまでもあるそうです。ペットをまるで、人間のよう扱い、人間と動物の境界線があいまいになっているのはちょっとおかしいじゃないでしょうか？このような現象は、人の生活が豊かになり、ペットにもお金をかける経済的な余裕のある人が増えたという社会変化の現れなのかもしれません。でも、犬や猫を飾り立て、洋服やマニキュアをぬってお金を使うより、食糧や教育を満足に受けられない人々に支援をする方がもっと先じゃないでしょうか？

田中先生ありがとうございました。では、ここでCMです。視聴者のみなさま、ご意見のお電話をお待ちしております。

[Short pause]

Section I — Listening and Responding

Part B

Question 2, Text 2

みなさん、たくさんのお電話ありがとうございます。まず、最初に横浜市にお住まいの鈴木さんからのお電話です。どうぞ鈴木さん。

鈴木直子： もしもし私はペットも人間も同等に扱われるべきだと思うんですよね。

(そうですか?)

鈴木直子： 今はいろいろな生活のあり方があるんだから、人間とペットの関係だってかわってきているじゃないの?

(たとえば?)

鈴木直子： う～ん、猫だって、昔はネズミ退治の道具として飼っていたんだろうけど、今は高齢化、独身化、少子化それに、孤独化が進んでいて、それが猫と人間のかえっていると思うんですよ。

(は～)

鈴木直子： そういう状況だから、愛玩動物としてのペットも、最近は子供のいないカップルや一人暮らしの人たちと一緒に生活をする家族の一員として扱われるようになってきていると思うんですよ。

(は～。そうかもしれませんね。)

鈴木直子： 私はね、こんなふうに人間の生活も、動物の生活も、同じようにたいせつにするのはすばらしいことだと思いますよ。

(ようするに、人間愛、人権の尊重のヒューマニズム的な考えが動物にまでひろがっているのかもしれませんがね。鈴木さんどうもありがとうございました。)

鈴木直子： はいはい。